

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 7 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25380256

研究課題名(和文)日本の経済思想：時間と空間の中で

研究課題名(英文)Japanese Economic Thought : Time and Space

研究代表者

川口 浩(KAWAGUCHI, Hiroshi)

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：90186073

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：国籍・性別・専攻分野等を異にする11名による本国際共同研究は、恐らく日本人の社会経済的行動の基盤をなしているであろう日本の経済思想の歴史的特質を明らかにすることを目的とするものである。そして、そのために、考察対象の「時間」と「空間」に大きな幅を持たせるという方法を採用し、実際、分析対象の「時間」は古代から近代に及び、「空間」も日中欧米にまたがっている。また、知識人だけでなく、多様な人物(群)を考察の対象とした。

結果として、時間的な連続・非連続と空間的な同質性・異質性が掛け合わさった歴史的現場としての日本における経済思想を多方面から議論することができたと思われる。

研究成果の概要(英文)：Participants of this international joint research are 11 people, whose nationality, sex, and major field are various. The purpose of this research is to clarify a historical characteristic of Japanese economic thought that probably forms the base of socio-economic behavior of the Japanese.

To achieve this purpose, we make "Time" -- from ancient times to modern ages -- and "Space" -- Japan, China, Europe, and the United States -- objects of study. Namely, time continuousness and non-continuousness are included in the history of Japan. And, the spatial homogeneity and heterogeneity exist with Japan between another regions. In addition, not only the intellect but also the entrepreneur and the politician live in Japan. We research all of such people.

Consequently, we can discuss the Japanese economic thought in such time and the space.

研究分野：日本経済思想史

キーワード：経済思想 経済史 国際比較 日本 ヨーロッパ アメリカ 中国 歴史

1. 研究開始当初の背景

(1)背景

1990年代以来、20年にも亘って国民経済の低迷が続く、ある種の閉塞感が日本の社会にただよっているとも言われている。また、同時に、国際化が急速に進行し、第2次世界大戦後の日本の「常識」が至る所で通用しなくなりつつある。さらに、2011年の東日本大震災は戦後の価値観の見直しに拍車を掛けるかも知れない。このような状況の中で、日本人・日本社会とはそもそも如何なるものなのかを改めて問い直すことは、将来に対する明確な展望を切り開かなければならない今日の日にとって、喫緊の課題であると思われる。

本研究の背景・動機は、このような問題意識に基づいて、日本人の社会経済的行動の基盤をなす経済思想の歴史的特性を解明することにある。

(2)経済思想と現代日本社会

経済思想は、いわば、その時々を経済社会に対する人々の現状認識であり、人々は自己の現状認識を基に各自行動を起こし、それが経済社会を動かす動因となる。日本における経済思想の歴史的特性の解明、すなわち日本経済思想史研究は、日本史上に存在した諸思想の一つ一つを分析の対象とし、個々の思想から成るある一つの「思想世界」全体の特徴を明らかにし、時間軸に沿って変化していく各時代の「思想世界」の特徴を、前後の時代のそれとの比較において相対的に把握する学問である。「思想世界」とは、ある一定の時代・地域に存在する思想の総体を言う。ここには、経済思想は社会的属性などで異なること、また、時代・空間を越えても変化しない要素と変化する要素が混在している可能性が想定されている。

したがって、日本における経済思想の歴史的展開過程を追い、特性を解明することは、現在の日本の経済社会が直面している課題を立体的に理解する一助になると考えられる。また、世界との距離を変えながら思想を深化させてきた日本を対象とすることは、歴史としての現代の世界を解き表すものと考えている。

2. 研究の目的

本研究は、従来の日本経済思想史研究の2つの問題点を克服し、日本経済思想史研究に新しい方向性を与えることを目的とする。

(1)問題点【1】 近世・近代間の連続性・非連続性、近代における研究対象の限定

近世・近代間の連続性・非連続性

従来、明治維新を境に、その前と後の経済思想については、それぞれ独立的に研究が行われてきた。つまり近世・近代間の連続・非連続に対する考察を欠いた形でなされる傾向

にあった。それは、明治維新前後で政治体制が大きく変わったという政治史的な時代区分に依存した研究方法であった。

無論、明治維新の歴史的意味を否定することは出来ない。しかし、日本史・日本経済史等の研究領域では、政権の交代を以て時代を区分せず、「長い19世紀」、つまり19世紀を一体として捉えるという視座の下で研究が行われることが、今日では珍しくない。

一方で、朱子学への批判から深化し江戸時代に展開した経済思想と、明治維新前後に欧米の経済学との接触で生じた新しい経済思想の間には、「一定の「断絶」を含む「連続」」があるとの指摘もされている。しかし、近世は経済思想史、近代以降は経済学史と、学問的手法が断絶していることも一因となり、依然、近世・近代間の連続・非連続の実証的な解明は難しい状況にある。

近代における研究対象の限定

また、この学問的方法の断絶から派生する問題も生じている。近代以降は、日本への欧米経済学の導入・定着の過程などの解明が重視され、研究対象の多くは「知識人」層である。その重要性は言うまでもないが、企業家や官僚などの経済思想が捉えきれないという問題がある。

(2)問題点【2】 国際的な比較研究の不足

もう1つの問題は、国際的な比較研究が必ずしも十分ではないことである。

これに対し研究代表者は、編著『日本の経済思想世界』(日本経済評論社、2004年)で、日中独の研究者による共同研究の成果を発表し、少しでもこの現状を改善しようと試みた。また、著者としても参加した日米欧の研究者による貴重な成果 Bettina Gramlich-Oka and Gregory Smits eds., *Economic Thought in Early Modern Japan* (Brill Academic Publishers, 2010) を、編著者として日本語訳出版した(『日米欧からみた近世日本の経済思想』岩田書院、2013年、科学研究費補助金[研究成果公開促進費]課題番号:245165、学術図書)。

しかし、国外研究者との共同研究は依然不活発であり、国外の側からも、個人的な関係を越えた、日本人研究者との幅広い交流の申し出は殆どないのが実態である。

3. 研究の方法

(1)「時間」と「空間」の拡張

対象とする時期を、特定の時代に片寄ることなく、中世から近代までの長期に亘る「時間」を設定する。これは、従前の研究には不足している、江戸から明治を「長い19世紀」、つまり19世紀を一体として捉える視座をさらに展開した手法であり、より通時的に日本の経済思想の展開過程を捉えることが可能となる。

同時に、対象とする「空間」も拡張する。

この「空間」には2つの意味がある、1つは、地理的な「空間」である。すなわち、国際比較史研究の観点を取り入れ、対象となる地域を日本国内に限定せず、日中欧米間の比較など、地理的な広がりを持たせることで、より鮮明に日本の経済思想の特質を浮き彫りにするものである。もう1つは、属性などの社会的な「空間」である。例えば、年齢・性別といった属人的な身体状況から、身分・職業・社会的地位などの社会的な属性に至るまで、幅広く視野に入れる。特に本研究では、研究対象を知識人層に限定せず、従来の研究では取り上げられることの少なかった企業者や政策者を意識的に分析対象とすることを目指している。史料的制約から生ずる研究上の困難は小さくないが、この「時間」と「空間」の組み合わせはほぼ無限である。その一つ一つについて個別研究の成果を積み重ねていくことが重要であり、この試みが一定の成果を挙げれば、思想史研究の新生面を切り開けるものと考えている。

(2)国際共同研究プロジェクトとしての遂行

研究代表者は、(1)の方法に対応し得る研究者を世界に求め、2010年半ばに日中欧米からの参加者を得ることに成功し、国際共同研究プロジェクト「日本の経済思想：時間と空間の中で Japanese Economic Thought : Time and Space」を立ち上げた。これは、2007年に日中交流大会の開催を主導し、2008年にドイツ、2009年にはアメリカでの国際学会に参加した経験を活かしたものである。2011年4月には、早稲田大学現代政治経済研究所研究部会として承認を得ることもできた。参加者は、意思疎通を十分にはかれることを重視し、最終的に11名とした。

(3)学際的手法の採用

研究者を鳩合するにあたり、留意した点が2つある。1つは、30～40歳代の若手研究者の積極的参加を強く求めた点である。これは、本共同研究が次世代研究者の国際的活動に繋がっていくことを期待してのことである。

もう1つは、共同研究者の専攻を経済学領域に限定しないことである。経済思想とは、経済的事象に関わる思想ではあるが、他領域の思想や思想以外の領域から独立的に存在するわけではないという理解に基づいている。このことは近代においてもそうであり、前近代ではなおさら経済思想と他領域との関係は緊密化するはずである。共同研究者の専攻領域を広く取ったのはこのためである。

4. 研究成果

本研究の成果については、下記のプロジェクト用サイトも参照していただきたい。

<http://www.waseda.jp/prj-jetts/>

(1)例会

本研究が採択されるまでの間、既に例会8回を開いてきたが、採択後も7回実施した。基本的には参加者による報告だが、4回は若手研究者を招聘し、日本古代における銭貨の意義、近世日本における鉱山経営者の思想と行動、近代移行期の洋学実践と国家意識、近代日本における地方資産家の家憲と資産管理などの新たな知見を得た。

(2)国際研究集会

参加者以外の出席者も広く求めた研究会を実施した。

本研究が開始されるまでも「日本の経済思想 近世・近代における経済思想の連続・非連続」という主題で一度開催している。採択後は、「日本経済思想史研究における国内外の研究水準ギャップと互惠」(2013年5月25日)というテーマで議論を行った。

この成果は、早稲田大学現代政治経済研究所日本経済思想史部会編「国際研究集会 日本の経済思想 「全体討論」の記録」(早稲田大学現代政治経済研究所、2014年4月24日)として発表した。

<http://www.waseda.jp/fpse/winpec/assets/uploads/2015/02/94f94ceb64492138b126f0949c907dd8.pdf>

(3)International Conference

国内外の出席者を広く求めた研究会を実施した。本研究開始前にはカレル大学東アジア研究所(プラハ・チェコ)にて、開始後にはボン大学(ボン・ドイツ、2014年9月1日・2日)で開催した。

ボン大学での会議は、これは本研究の成果である論文集の刊行に向けた最終的な発表・議論の機会としても利用された。

(4)論文集

研究代表者を編者とし、参加者11名のうち10名による本研究の成果をまとめた論文集を刊行した。なお1名は原稿を半ばまで脱稿していたものの、体調不良により掲載には至らなかったが、チェコでのInternational Conferenceの主催など、本研究への寄与は非常に大きい。

『日本の経済思想 時間と空間の中で』(早稲田大学現代政治経済研究所研究叢書42、ペリかん社、2016年)

<http://www.perikansha.co.jp/Search.cgi?mode=SHOW&code=1000001712>

第1章 古代・中世日本の経済思想 = イーサン・セガール(田中アユ子訳)

第2章 クリエムヒルトの財産 = 岩井方男

第3章 経済思想における三浦梅園 = 川口浩

第4章 西欧・中国における文献研究の発展 = 竹村英二

第5章 天保期殖産政策をめぐる思想 = 矢森小映子

第6章 日本の経済思想文献のヨーロッパ言語への翻訳について = ベディーナ・グラム

リヒ=オカ(田中アユ子訳)
第7章 徳川・明治時代の休浜替持法とその思想 = 来誠一郎
第8章 明治期における地方の企業生成と経済思想 = 石井寿美世
第9章 梁啓超と日本 = 劉群芸
第10章 関東大震災をめぐる日中関係 = 武藤秀太郎

(5)主な成果

「時間」からみた日本の経済思想

一つは、経済思想というものの自体が、現代人である我々が考えた概念であることが明らかになった。経済思想を歴史的に考察しようとする場合、現代人である我々が考えた経済思想とそれ以外の思想部分との構造的連関を把握し、その中において経済思想なるものの意味を理解しなければならないということである。

もう一つは、経済思想の特性である。経済思想が把握の対象とする経済現象は、一定程度数量的な現象なので、時間や空間を越えるという意味での普遍的性格を比較的強く帯びている可能性が否定できないが、もしそうだとすれば、経済思想を理解するうえで要となるのは、むしろ経済思想以外の思想部分であるかも知れない、あるいは、少なくともその両者の組み合わせである。日本に経済思想というものがあるにしても、それが他の思想部分と無関係に、それから独立する形で存在していたことは、中世から近代までなかったと、仮説的にはあるが、言ってもいいように思われる。

「空間」からみた日本の経済思想

人類史が持つ時間軸は恐らく一本ではない。元々、地球上の各地域には、相互に無関係ではないにしても、それぞれ独自性を持った時間が流れていた。18世紀以降、西洋諸国が列強化するにつれ、各地域の時間軸が西洋の時間軸に強力に引き寄せられ、今やそれが殆ど一本になっているかの如くではある。

しかし、近代において欧米・中国から日本を見た時、当時注目されたのは日中欧間の「共通性」であり、実際にそれが存在していると思われていたが、その半面、「共通性」という枠組みには収まりきれない要素も実は少なからずあったのだということが示唆できる。また、それは、ある特定の時空間に存在している思想が他の時空間に伝播した時に、多かれ少なかれ生起する。

こうした時間的な連続・非連続と空間的な同質性・異質性が掛け合わさった歴史的現場が、19世紀日本にはあったことが考えられる。

国内外における位置づけとインパクト・今後の展望

本研究の成果として刊行された論文集は、日中米欧の研究者による日本経済思想史研究をまとめた国内外で初めての成果物と言える。

その内容も、いわゆる思想家に限定されがちであった研究対象の枠を超えて為政者・企業者・労働者などをも取り扱い、対象期間を古代から近代の長期に設定とし、学界の課題であった、時代間の連続性・非連続性の解明にも積極的に取り組んだ。また、当時、欧米・中国から日本の経済思想がどう捉えられていたかという、新しい視点も盛り込むことが出来た。

こうした成果は学界・社会に対する大きな貢献になると考えているが、可能であれば英訳出版を行い国外にも広く周知をしたい。

また、本研究でも日本経済思想史以外を専門とする研究者を鳩合したが、今後、日本の経済思想の歴史を多面的に掘り下げるために、より多くの分野、例えば美術史・社会史・経済地理など、社会科学あるいは歴史分野以外の研究者とも連携をとっていくことが必要と考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

早稲田大学現代政治経済研究所日本経済思想史部会編(発言者[記載順]:川口浩・斎藤修・竹村英二・池尾愛子・石井寿美世・岩井方男・魚住孝至・武藤秀太郎・来誠一郎)「国際研究集会 日本の経済思想 「全体討論」の記録」『早稲田大学現代政治経済研究所研究レポート』No.1301、早稲田大学(現代政治経済研究所) 査読無、2014年4月24日、38ページ

<http://www.waseda.jp/fpse/winpec/assets/uploads/2015/02/94f94ceb64492138b126f0949c907dd8.pdf>

矢森小映子「天保期田原藩における「藩」意識の諸相

家老渡辺華山の凶荒対策を中心に」日本歴史学会編集『日本歴史』吉川弘文館、2013年7月1日

〔学会発表〕(計 1 件)

石井寿美世「明治期地方企業家における社会的責任意識 静岡県引佐郡 伊東磯平治・伊東要蔵を事例として」福澤研究センターシンポジウム、2014年6月28日、慶應義塾大学(東京都港区)

〔図書〕(計 1 件)

川口浩、石井寿美世、ベティーナ・グラムリヒ=オカ、劉群芸『日本経済思想史 江戸から昭和』勁草書房、2015年、328ページ

〔その他〕

ホームページ等

本研究会公式サイト

<http://www.waseda.jp/prj-jetts/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川口 浩 (KAWAGUCHI, Hiroshi)
早稲田大学・政治経済学術院・教授
研究者番号：90186073

(2) 研究分担者

竹村 英二 (TAKEMURA, Eiji)
国土館大学・21世紀アジア学部・教授
研究者番号：80319889

グラムリヒ = オカ ベティーナ
(Gramlich-Oka, Bettina)
上智大学・国際教養学部・准教授
研究者番号：60573417

武藤 秀太郎 (MUTO, Shutaro)
新潟大学・経済学部・准教授
研究者番号：10612913

石井 寿美世 (ISHII, Sumiyo)
大東文化大学・経済学部・専任講師
研究者番号：00348830

(4) 研究協力者

シーコラ ヤン (SYKORA, Jan)
セーガル イーサン (SEGAL, Ethan)
劉 群芸 (LIU, Qunyi)
矢森 小映子 (YAMORI, Saeko)
岩井 方男 (IWAI, Masao)
来 誠一郎 (RAI, Seiichiro)